

選考試験 専門記述式問題（歴史学芸員（生涯学習概論））

平成30年12月21日、中央教育審議会は、「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」を答申した。そもそも、文部科学大臣の諮問には、「公民館、図書館、博物館等の社会教育施設に求められる役割」や「社会教育施設が求められる役割を果たすために必要な具体的方策」が審議の柱として位置づけられていた。

答申の中で、博物館のあり方に関する記述には次のようなものがある。

今後、博物館には、「博物館法に定める役割をより充実した形で果たすよう、『社会に開かれた教育課程』*の実現に向けて、地域の学校における学習内容に即した展示・教育事業の実施や、教師の授業支援につながるような教材やプログラムの提供等を強化することや、地域住民はもとより、国内・国外の多くの人々が知的好奇心を満たしつつ広く交流することのできる場としての役割」が強く求められている。

加えて、「各種の講演会、研究会等の開催を通じて、各分野におけるボランティアの養成や、友の会等のネットワークづくりを展開することや、住民参加のワークショップ等を通じて、博物館の事業やその地域の在り方、社会的課題解決の方法等について共に議論し、博物館の事業の改善や住民の主体的な活動につなげていくこと」にも触れている。

生涯学習推進の観点から、人々の学習を支援し、人と人をつなぎ、個人や集団の意欲を高め、地域づくり（地域の持続可能性）へと結ぶような役割が、博物館等の社会教育施設に求められている証左ともなっている。新しい時代の博物館をどう創造するのか、学芸員を中心に関係機関と連携しながら早急に検討する必要がある。

*：学習指導要領改定の議論の中で、これからの教育課程の理念として位置づけられた。中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に要約すると、社会に開かれた教育課程とは、「社会や世界の状況を幅広く視野に入れ」、「よい社会を創るという目標を持ち」、その目標の達成に必要な資質・能力を「教育課程において明確化し育むことであるという。また、「教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること」が肝要だという。

問：中央教育審議会の答申から、博物館は未来に開かれた大きな可能性を有する社会教育施設・生涯学習支援施設として期待されていることが読み取れる。この期待に学芸員や博物館職員はどのように応えればよいか。600字以上700字以下で論述し、最後にその中から重要度の高いキーワードを3つ挙げよ。